

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム育成会 (ユニット名 灯)	評価実施年月日	平成21年1月25日
評価実施構成員氏名	鳴海・竹田・竹森・板谷・田中・長谷・藤本・佐野		
記録者氏名	鳴海 真弓	記録年月日	平成21年1月30日

北 海 道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	人間として、尊厳や権利を損なわず、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、共同生活を暮らして頂ける思いで事業主と話し合いました。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	入職時のオリエンテーションの際に、理念の配布と説明を行い、毎朝の申し送りの際には、必ず理念の確認を行っています。また、各ユニット内や正面玄関内にも掲示しています。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	入居の際の契約時や面会時、ご家族への理念の説明は随時行っており、地域の方々にも行事や会合の場で理念についての説明を行っています。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	春先から秋頃まで天気の良い日は殆んど外気浴・散歩を実施。散歩の途中に近所の方と気軽に声を掛け合ったり、近隣の方が栽培された野菜を頂いたり、また、ホームへ切り花を持って来て下さったりして頂いています。その際に入居者や職員とともにお茶会を行っています。頂いた切り花はさっそく各ユニットや入口からすぐ見える玄関先に飾らせて頂いています。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の行事(ミニ運動会・焼き肉パーティー等)に参加し、地域の方々と共に過ごす時間や機会を作っています。また、ホーム側からも、行事や催し物がある事に声を掛け、ホームの中や敷地内で交流を行っています。昨年においては町内会の協力のもと、ホームの敷地を利用した盆踊りを開催。この地域では16年ぶりの事で、多くの人に参加して頂け、入居者との交流もより深められた事に感謝しています。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の行事開催時の場所の提供(敷地等)、入居者が参加する町内会行事への職員支援を行っています。また、気軽に立ち寄って頂いた際には、入居者や職員とともにお茶会を行っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	どんな小さな事でも、入居者の意見や不満・苦情を傾聴し、早期解決に努めています。解決が困難な場合には、ご家族への説明とともに協力を頂きながら、解決法を相談させていただきます。また、普段から馴染みの関係を持ち、スタッフ側からも機会を見つけて、意見や不満等を聞けるような雰囲気作りに努めています。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族対応での定期通院時や面会時・電話連絡等にて、日々の生活状況や健康状態の報告をさせて頂いています。また、月に一度の育成通信誌発行の中で、行事の参加や日々の暮らしぶりを写真で掲載し、お一人おひとりに職員より、その月の様子がお伝え出来るようコメントを入れ、各個人のご家族へ送付させて頂いています。金銭管理については、収支伝票及び出納帳の記入を徹底しています。各ユニットの出入口には、ご家族が分かりやすいように、ユニット毎の職員の写真を掲示。また、新入職員が入った際には、育成通信誌にも掲載し、ご家族にご紹介しています。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情を対応をする職員を置き、ホーム玄関先に意見箱と意見・苦情用紙を設置。面会時や電話等でご家族がいつでも意見・不満・苦情等が言える雰囲気作りにスタッフ全員が心がけています。事業所内での解決が困難な際には、第三者機関や市・道の苦情担当者への相談も可能である事をお伝えし、出来る限り早期解決が図れるよう迅速に努めます。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な会議やケアカンファレンスの際に、職員の意見や提案を聞く機会を設けています。定期的及び必要と思われる際に随時個人面談を行い、職員一人ひとりの意見・提案を聞き、反映させています。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	常にユニットの職員全員の協力があり、突発的な勤務調整や必要な時間帯の職員の確保も出来ています。冠婚葬祭などで長期休暇等が必要となった際にも、職員一人ひとりが調整可能な日を提示するなど、快く了解して頂いています。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	昨年の1月に管理者が退職し、各ユニットの職員の人事異動もありましたが、日頃より2・3階の入居者・職員が毎日のようにカラオケやお茶会、趣味・工作等で交流を深め、馴染みの関係作りをしている事から、入居者の大きな動揺も無く、ダメージも最小限に防止する事ができ、現在も馴染みの関係は維持出来ています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>外部の研修に参加して頂き、研修内容をスタッフ会議や学習会で他の職員に報告し、情報を共有しています。また、実際に援助の中で実践し、確認・理解してもらう事で、各ユニットの職員のスキルアップの向上に努めています。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>グループホーム協議会の研修会や交流会等への参加及び地域包括支援センター主催の学習会等にも参加。同業者との交流を図りながら、同業者同士の職員の交換研修等を通じ、参考にさせて頂きながら改善すべき箇所は早期に話し合うなど、サービス向上に向けての取り組みを行っています。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>定期的に各ユニットを訪問し、一人ひとりの職員と挨拶・会話をする中で、不安や疑問・意見や不満等の訴えを聞き入れるなど、少しでも個々の職員のストレスを軽減する為の取り組みをしています。忘年会や新年会等も行っています。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>個々の職員の支援に対する努力・実績・勤務状況等をフロアリーダー・ケアマネから報告を受け、職員のメンタル面にも配慮しながら、個々の技能・能力を生かし、常に向上心を引き出せるような指導・助言に努めています。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>利用相談の際より、ご家族や関わりのある事業所等から情報の提供をして頂き、傾聴・受容の姿勢で取り組む事で、ご本人が困っている事・不安な事・求めている事を、安心して相談できる受け入れ態勢・雰囲気作りに努めています。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>利用相談の際より、関わりのある事業所等から情報を提供して頂きながら、ご家族の思いや困っている事・不安に思っている事・求めている事などを傾聴し、十分な説明を行う事で、安心してご利用頂けるよう心がけています。また、ご家族が気軽に意見や相談事が話せるよう雰囲気作りにも努めています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用相談の際より、ご本人やご家族の思いや意向を傾聴し、必要としている支援の見極めを行っています。求められている支援に対し、職員全員と協議を行いながら、初期の介護支援計画を立て、その他のサービスについてもご家族と相談し、必要としているサービス利用を含めた支援に努めている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご利用相談の際には必ず、ご本人やご家族にホーム内の見学をして頂き、ホームでの生活の様子や雰囲気を体験して頂いています。また、その際に他の入居者と一緒にお茶会を行うなど、交流を図る為の場面作りの工夫も行っています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	身体の障害及び重度の認知症の方が多く、共同での料理や掃除を行う事が難しい中で、職員全員がケアを統一し、個々の残存能力を活かした共同作業や日常生活動作を行って頂いています。関わりを多く持ちながら、日々の生活の中で喜怒哀楽を共にし、古くから伝わる良き風習を教えて頂いたり、逆に時代の移り変わりによる物の変化や利便性などを伝える事で、共に過ごし支えあう関係作りに努めています。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	定期的な連絡や面会時、月に一度の通信誌により、個々の入居者の様子を報告すると同時に、ご家族への要望を伝える代弁者となり、ご家族と連携を図りながら共に支援を行っています。その他、ご家族には行事や催し物がある際にはご案内をさせて頂き、個々ご家族との時間を共有出来るように働きかけています。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族からの情報提供を頂きながら、ご本人とご家族との関係の理解に努め、ホームでのご様子とともにご本人のご家族への思いを伝えたり、交流が図れる場面作りを行う事で、より良い関係の築き・絆が深められるよう支援に努めています。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの美容室やお店・観光場所へ行ったり、親戚や友人との電話のやり取り・来設を受けています。また、趣味等も継続できるように支援に努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	職員が仲介役となり、入居者同士の交流・関係作りの支援を行っています。最近では、入居者同士が互いを気遣い声掛け合ったり、時には助け合い、支え合いながら生活を共にしています。また、ご本人の希望されている事や訴えのある際には、代弁して職員に知らせて下さる事も多くあります。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	長期入院等によりサービスの利用が終了しても、定期的な面会やご家族のご相談も受け、必要とされる対応や支援をさせて頂いています。逆に退去後もご家族が連絡を下さったり立ち寄って下さり、雑布等の支援物資の提供も受けています。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや意向の把握に努め、職員全員と情報を共有しながら支援に努めています。把握が困難な場合は、ご本人の動作や表情の中から思いや意向を感じ取る努力を行い、ご家族や職員全員と話し合いながら、ご本人本位の介護計画を作成し、支援に努めています。また、日々の生活の中で、自分の思いを伝えられるような信頼関係作りにも努めています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族や関わりのあった事業所等から情報の提供を頂き、直接ご本人に生活歴をお聞きし、居室には馴染みの物や家具などを持ち込むなどしながら、これまでの暮らしの把握に努め、住み慣れた環境作りに努めています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの身体機能と残存能力の把握に努め、日々の生活の中での体調の変化や動作・表情・言動の観察を行い、個々の介護記録に記載。職員間での情報共有を行いながら、その人なりの生活が維持できるよう努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご家族・ご本人の思いや意向を反映した、利用者本位の介護計画となるように、職員全員と話し合いながら、介護支援専門員がご本人・ご家族・職員一人ひとりの意見や提案を盛り込んだ介護計画を作成しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	基本3ヶ月毎の見直しの他に、身体及び精神面の急激な変化がある毎に、ご本人・ご家族と相談し、不安や意向について傾聴。速やかにケアカンファレンスを開催し職員間で話し合い、状況報告や意見・職員一人ひとりの提案を盛り込みながら、介護支援専門員がご本人なりの安定した生活を過ごして頂くための介護計画を作成し、職員全員が内容確認の後、ご家族への説明・了解と捺印を頂いています。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の生活状況や体調の変化、介護計画の中で課題内容と思われる動作や言動、対応などを介護記録に記載し、職員間での情報共有にも活用しています。記録内容を参考に職員全員で検討しながら、支援の実践や介護計画の見直しに活かしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご家族と定期的な連絡及び連携を図りながら、外出や病院受診等の支援を行っています。ご本人の意向・要望によっては、買い物や近郊へのドライブ、公共施設への見学等も実施しています。その人なりの生活が継続して頂けるように、柔軟な姿勢で支援に取り組んでいます。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	災害など必要に応じて交番や消防・地域の方々へのご協力をお願いしています。年に2回定期的に防火訓練を実施。外部徘徊等の対策としてSOSネットワーク(交番)との連携、地域や小学校のボランティアの慰問を受けるなど、皆様のご協力を頂きながら支援に努めています。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	ご本人の必要性に応じて、地域のケアマネージャーやサービス事業者に相談・話し合いながら、福祉用具のサービスを利用したり、介護タクシー等を利用しています。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	定期的な訪問や運営推進会議等の際に、入居者に対する相談事やご家族の悩みの相談、地域住民との取り組みについての指導や助言を頂くなど、常に協力体制・連携を図っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	個々の利用者のご家族と連携を図りながら、かかりつけの病院へ定期受診及び異変時の受診対応を行っています。ご家族が受診同行の際には、経過状況報告書と健康管理票(バイタルチェック表を作成)をご家族に持参して頂く事で、適切な医療が受けられるよう支援に努めています。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	精神科やかかりつけ医との連携を図りながら、受診時及び往診時に経過状況報告等を行う事で、入居者が認知症に関する診断や適切な治療を受けられるよう支援に努めています。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	定期的な訪問看護師の来設の際には、日常生活の状況及び治療経過の報告・相談をし、一人ひとりのご様子を見て頂きながら、日常生活上の指導を受ける事で、健康管理や医療活用の支援に努めています。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者が入院した際、ご家族の負担軽減のため連絡を密に取りながら、定期的に訪問し、必要物品の準備と衣類の洗濯・交換の実施。療養状況や療養方針について看護師やソーシャルワーカーとの情報交換や相談に努めています。退院後の安定した受け入れ態勢が整えられる様、スタッフへの情報共有も常に行っています。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末期に関しては、ホームの利用相談の際より、ご本人やご家族からの不安事として相談が多い為、早い段階から話し合い、ターミナルを希望される方には医師や訪問看護師との協議の上、スタッフにも方針を周知・共有しています。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	かかりつけ医や訪問看護師の協力のもと、重度化や終末期の利用者が、残された日々をその人なりに穏やかに過ごして頂けるように、ホームとしての「できる事・できない事」を見極め、ご家族への十分な説明と理解を得ながら、医療との連携を図り、チームとして精神誠意支援に取り組んでいます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ホームから別の居宅及び施設等へ移り住む際、移動先との話し合いや支援状況等の情報交換を行い、介護内容を詳細に記入した添付書をお渡しする事で、住み替えによるダメージの防止に努めています。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者一人ひとりの人格を尊重し、自尊心を傷つけないように優しい雰囲気です。個人情報は事務所の書庫にて保管・管理を行っています。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>日々の会話の中で、ご本人の思いや希望を他者に伝えられるような信頼関係作りに努めています。また、ご本人のしたい事・行きたい所などを選択出来るように働きかけるなど、自己決定の支援も行っています。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>個々の生活習慣を把握し、ご本人の意向を尊重した支援に努めています。その人らしい生活を過ごして頂けるように日々の健康管理とともに、ご本人の思いや希望を発する事が出来る環境作りに努めています。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>ご本人の好みの色や服装を把握し、その人らしさが保てるように支援に努めています。また、整容の乱れや汚れなどに対し、ご本人の自尊心を傷つけない様、さりげない誘導と援助に心がけています。理・美容に関しては月に一度、専門の美容師が訪問。中にはご家族や職員と外出して馴染みの理・美容室に出掛けたり、洋服を買いに行かれる方もいます。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>身体機能の低下及び認知症の症状が中・重度の方が多く、ご高齢の方が多いため、食事作りや掃除をする事が困難であるも、食材の下処理や食器の配膳・下膳、食器拭き等を手伝って下さったり、居室の掃除の際に、掃除がしやすいように物を移動させて下さったりと、ご本人なりに出来る事を実施されています。献立も職員が決めてしまうのではなく、事前に何が食べたいのか個々の入居者と相談しながら、献立を決めています。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	現在、タバコを喫煙される方はいませんが、お酒は体調を考慮しながら、希望された方のみ、行事等の際にお出ししています。飲み物は入居者の好みの物や身体に優しい物、昔懐かしいサイダー系の物なども用意。おやつも好みに合わせた手作りのお菓子や、昔懐かしい駄菓子等も個々の希望に合わせてながら用意する事で、楽しみの一つになるように支援しています。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	現在、車椅子使用にて一人ではトイレ移動・排泄行為が出来ない方や、認知症の進行により、排泄を訴える事が出来ない方がいますが、ホームではオムツは使用せず、リハビリパンツ・尿取りパットを使用し、定期的にトイレ誘導・移動介助をする事で、失禁はあるものの、ご本人なりにトイレでの排泄が来ています。また、また、重度の身障者の方に対しても、出来る限り自力でトイレに行き、排泄がしたいという思いを尊重し、一日20～25回ほどになりますが、職員2名でのトイレ誘導・移動介助を行う事で、気持ちよく排泄が出来るよう支援しています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	個々に気持ち良く入浴して頂く為、強要はせずご本人に入浴の意向を確認しながら、週2～3回程度の入浴を支援しています。入浴を苦手とし、拒否される方に対しても、時間を置いて別な職員(気の知れた)からの再入浴の促しをしたり、日を改めて入浴を勧める事で、安楽な入浴ができるよう支援しています。また、入浴する際には入浴剤等を投入するなど、入浴を楽しんで頂けるよう支援しています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	リビングには2か所ソファが設置されており、それぞれ自由に寛いで頂いています。車椅子の方や足にむくみのある方など、状況に応じてソファに移動介助し、足を延ばして頂いたり、高くする事で気持ちよく休息して頂けるよう支援しています。また、夜間不眠傾向にある方については、職員とともに日中軽い運動をして頂いたり、物作り等の活動を実施。時には回想法を用いた団樂の時間を持つ事で、精神面の安定化を図り、安心して休息・睡眠が取れる様支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々の生活歴や趣味を活かし、カラオケや畑仕事・物作り等を実施。定期的に近郊へのドライブに出かけたり、外食を楽しんで頂いたり、近隣の方との交流を図る事で、集団の中であっても閉鎖的な生活とならぬ様、張り合いや喜びの持てる支援に努めています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	大きな金額に関しては、ご本人・ご家族と相談し、事務所内の金庫で保管させて頂いています。ご本人の希望によっては、おこずかい程度の金額を管理して頂き、外出やドライブの際に買い物代金をご自分で払って頂くなど、自らお金を管理し使えるように支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>	<p>春先から秋頃まで天候の良い日は、殆んど外気浴や散歩、近郊へのドライブや外食・買い物など屋外へ出かける機会を多く取り入れています。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>	<p>ホームでは定期的に個々の入居者に行きたい所を聞きながら、四季のドライブや食べ歩きドライブに行っています。また、ご家族との温泉旅行や法事の為の長期旅行にも出かけられる為、健康管理及び日常生活の状況をご家族にご報告する事で、安心して気軽に出かけられる機会がつかれるよう支援しています。</p>		
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>自ら電話を掛けたり、手紙を書いたりする事は出来ませんが、希望時及び定期的にご家族との連絡が取れる様、職員が電話を取り次いだり、個々の手作りの葉書をご家族に送付するなどの支援をしています。ご親類やご友人からの手紙が来た際には、職員が代筆を頼まれ返信する事もあります。</p>		
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>ご家族やご友人等が訪問の際には、気楽に過ごして頂けるように場所を設けたり、ご家族の訪問時には個人のアルバムや作品を見て頂き、楽しい思い出やホームでの出来事を話して頂くなど、和やかな時間を過ごして頂けるよう工夫しています。</p>		
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>運営者及び全ての職員が身体拘束における具体的な内容を把握しており、学習会や会議の場でも再確認しながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。</p>		
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>運営者及び全ての職員が鍵を掛ける事への弊害を理解し、鍵を掛けないケアに取り組んでおり、現在、鍵を掛ける事はありません。また、帰宅願望の強い方に対しても、ご本人の行く手を阻む事無く同行し、ご本人の思い・意向を傾聴しながら納得してホームに戻られるような支援もしています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	個々のプライバシーに配慮しながら、居室在室時は自由に扉の開け閉めをして頂き、ご本人なりの安楽な時間を過ごして頂いています。定期的な見守りの際には、必ず扉をロックして訪室し、声掛け・安否確認をさせて頂いています。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個々の状態・生活状況に応じて、必要としている物品(裁縫道具・鋏・爪切り等)に関しては取り除く事はせず、自由に使用して頂いています。注意が必要になった際にはご家族にご相談させて頂き、また、ご家族がご本人とご相談頂きながら、危険の防止に努めています。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	職員全てが入居者一人ひとりのADL状況を常に把握し、会議等で個々にどのような危険性があるのかを報告・連絡・検討しながら、事故防止に取り組んでいます。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変時・緊急時のマニュアルを作成。常に職員が早期対応出来るように、学習会や会議の際に対応方法を確認している。昨年よりホームにAEDを設置。使用方法も講習し、分かりやすく使用方法のマニュアルも装備しています。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	運営推進会議において、町内会役員の方々に災害時、地域の皆様の協力要請をお願いしています。また、防火訓練の際に消防職員にいちばん安全と思われる避難方法・避難場所についてご指導頂き、職員全てに周知しています。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ご入居前より、ご本人との面会及びご家族やサービスを受けていた事業所等からの情報提供により身体状況を把握し、個々に起こり得るリスクについてご家族に十分な説明・理解を得ています。日々変化がある毎に報告・相談、状況に応じた対策を行う事で、抑圧感のないご本人なりの暮らしが維持出来るよう努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>毎日、台所の調理器具等の殺菌消毒等を実施。食材の有効期限や保存方法を守り、食事を作る時間(特に夏の時期)を考慮しながら調理・工夫に努めています。(基本、作り置き2時間以内)</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>バリアフリーの玄関前には畑と花壇が隣接し、ベンチが設置されています。毎年春先には地域の方々の協力を受け、畑・花壇に種や苗を植え、設置されたベンチに座りながら、秋頃まで畑の生育状況や花壇の花々を楽しむ事が出来ます。時には近隣の方のお茶会やホームの昼食タイム、地域の方も交えた周年祭なども行われ、子供達も気軽に寄ってくれます。また、ホームの玄関前は毎年町内会の行事にも活用されています。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>玄関やユニットの出入り口、リビング等には季節ごとのタペストリーや花・小物を飾り、季節感を取り入れています。また、1階フリーフロアーには、共同作業で作った作品なども同様に展示し、いつでも見学しながらくつろげる娯楽の場所となっています。トイレはいつでも安心して使用して頂けるよう、常に清潔に心がけています。共用空間の掃除の際には、事前に声を掛けてから掃除機等を掛けています。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビングには、テーブル席とソファが2か所設置されており、それぞれお好きな所で自由に過ごして頂けるように工夫しています。1階のフリーフロアーにも娯楽の場所や和室が設置され、自由に使用できるようになっています。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居前に使用していた馴染みの物を用意して頂いたり、転倒防止に配慮しながら、ご本人が心地よく生活して頂けるよう工夫をしています。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>共用空間及び各居室の温度調整を行いながら、ほぼ毎日換気を行っています。体温調節が難しく換気により寒さを感じる方がいる為、一度に全ての換気を行うのではなく、共用空間の換気の際には居室にて過ごして頂き、居室の換気の際にはリビングにて職員と談話や趣味・物作り等で過ごして頂くなど、入居者の状況に応じて実施しています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。</p>	<p>建物全体がバリアフリーであり、手すりや備付けの椅子等が設置されていますが、入居者のうち5名が車椅子を利用。自力歩行可能な4名もまた、ふらつきや躓きがあり、転倒の危険性がある為、共用スペースの移動場所には物を置かないよう常に配慮し、移動時の見守り強化と声掛け・誘導を行うなどしながら、その人なりの自立した生活が過ごせるように工夫しています。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>会話の中で、「理解できる事・理解できない事」、「できる事・できない事」を職員全てが把握し、見守りを強化しながらさりげない援助を行うなど、混乱や失敗を未然に防ぎ、その人なりの自立した生活が過ごせるように工夫し、支援しています。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>建物のほぼ周囲全体が畑や花壇になっており、春先から秋頃まで野菜作りや花の彩りを楽しまれています。秋の収穫期には入居者自らが収穫し、その喜びを味わって頂いています。各階のベランダには物干し台を設置し、洗濯物干しを手伝って下さったり、個人の鉢植え等を置き、生育を楽しまれています。</p>	

. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>職員全員が利用者一人ひとりの思いや意向について把握し、意見を出し合ってケアプランを作っております。</p>
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>「介護する」「介護をされる」といった一方的な関係ではなく、一緒に過ごす時間を作ることによって、喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり支え合う関係を築くのはサービスを支援するには不可欠であると考えております。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>一人ひとりの生活のリズムや、本人の意向を大切に、日々の暮らしがその人らしいものとなるように心がけています。ホームの都合や決まり事に合わせるのではないと思っております。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>基本的な生活の支援として、身だしなみやおしゃべり、食事を楽しむなど、一人ひとりの好みや力を活かしながら支援しております。また、気持ちよく排泄するための工夫や、くつろいだ気分で入浴していただくなど、工夫して支援しております。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>利用者がホームの中だけで過ごさずに、散歩など戸外へ外出できるような支援をしています。畑もあるので、作物の成長を見るのが日課の方もいますし、同じ町内では花壇の整備している方も多く、それを見るのが楽しみでもあります。また、普段行けないような場所に車でドライブすることも定期的に行っています。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>平成19年より、訪問看護ステーションと連携を持ち、定期的な訪問を受け健康管理や悪化予防、助言や指導も頂いています。また、歯科や皮膚科の往診もあります。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>利用者の要望は固定したのではなく、その時々々の本人やご家族の状況、要望に引き合わせて、必要な支援を柔軟に行っております。それには、馴染みの職員が継続的に支えるのが不可欠であると考えております。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p> <p>理念にもありますが、ご家族との理解と協力があってこそ、利用者へのより良い支援に繋がると考えております。ホームに介護をゆだねきりではなく、連絡を密にとりながら信頼関係を築いていかなければならないと思っております。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>本人の馴染みの人たちが気軽に訪ねてきてくださいます。また、町内会や老人会の交流の場所として、1階のスペースを開放しておりますが、居心地良く過ごせるような配慮や工夫も必要なので、職員が話し合って進めていきたいと考えております。</p>

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	運営推進会議は定期的に行っており、町内会の役員の方が参加してくださっております。町内会の行事にも積極的に参加しており、地元の関係は深まってきていると思います。また、包括支援センターとの連携では、地域巡回相談の場所としてホームのスペースを利用する予定もあります。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	定期的に個人面談を行っています。職員の働く環境が良いものでなくて、良いサービスの提供はできないと考えております。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	利用者がその人らしく暮らし続けるため、職員全員で話し合いをしてケアプランを作成していますので、できる限りのサービスは提供していると思っております。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	最初の相談から現在に至るまでの関係作りはできていると思っております。本人と家族の思いの違い、家族同士の中での違いも含め、ご家族の立場に立って、お話をしっかりと聴き、受け止めながら信頼関係を築いております。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

ホームが地域において、閉鎖的や孤立した場所にならないように、地域との交流を大事にしています。建物の1階部分が開放できるので、色々な行事を行い参加もしています。また、前庭は、町内会の盆踊り大会や野遊会の場所としても利用していただいています。また、災害時の一時避難場所として、地域の人たちの受け入れ等やホームの災害時についても、町内会と連携し相互協力の関係でありたいと考えております。

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム育成会 (ユニット名 望)	評価実施年月日	平成21年1月25日
評価実施構成員氏名	松本・高野・館田・高橋・及川・行田・成瀬		
記録者氏名	松本 優子	記録年月日	平成21年1月30日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>人間として、尊厳や権利を損なわず、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、共同生活を暮らして頂ける思いで事業主と話し合いました。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>入職時のオリエンテーションにて、理念の配布と説明。各ユニットや正面玄関に掲示しています。また、毎朝の申し送りの際に、基本理念・ケア理念・運営理念の音読を行い、周知・実践に活かしています。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>契約時や面会の際などに、ご家族への理念の説明を随時行っており、地域の方々にも行事や会合の場で説明を行い、ご理解を得られるようにしています。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>天気の良い日は殆んど、外気浴・周辺の散歩を実施。散歩途中では気軽に声を掛け合ったり、春先の畑の種まきの時期など、近隣の方のアドバイスを頂く事もあります。また、近隣の方が育てた切り花を定期的にホームに届けて下さり、その際に入居者や職員とともにお茶を飲みながら交流を図らせて頂いています。頂いた切り花は各ユニットや玄関先に飾らせて頂いています。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会の行事への参加をさせて頂くとともに、ホーム主催の行事・イベント等へのお誘いを行うなど、ホーム内外での交流を図らせて頂いています。昨年からは町内会の協力のもと、ホームの敷地内で16年ぶりの盆踊りを開催。多くの皆様に参加を頂き、楽しんで頂く事も出来ました。</p>	
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>地域の行事開催時の場所の提供(敷地等)、入居者が参加する町内会行事への職員支援を行っています。また、気軽に立ち寄り頂いた際には、入居者や職員とともにお茶会を行っています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		今後、それらを活用出来るように支援していきたいと思います。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常生活の中で、すべての入居者・職員がサークルになり、雑談・意見交換が出来る雰囲気作りをしており、それぞれの思いや不満をケアに反映出来るよう努めています。また、解決が困難な場合には、ご家族への報告とともに協力を受け、早期解決に努めています。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月育成通信誌を発行し、その月の生活のご様子・近況報告等を実施しています。金銭管理については、収支伝票及び出納帳の記入を徹底しています。各ユニットの出入り口にはご家族が分かりやすいように、ユニット毎のスタッフの写真を掲示。新入職員が入った際には育成通信誌にも掲載し、ご家族にご紹介しています。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情対応をする職員を置き、ホーム玄関先に意見箱と意見・苦情用紙を設置。面会時や電話等でご家族がいつでも意見・不満・苦情等と言える雰囲気作りにはスタッフ全員が心がけています。事業所内での解決が困難な際には、第三者機関や市・道の苦情担当者への相談も可能である事をお伝えし、出来る限り早期解決が図れるよう迅速に努めます。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な会議やケアカンファレンスの際に、スタッフの意見や提案を聞く機会を設けています。定期的及び必要と思われる際に随時個人面談を行い、スタッフ一人ひとりの意見・提案を聞き、反映させています。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	スタッフの協力があり、突発的な勤務調整や必要な時間の確保が出来ています。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	昨年の1月に管理者が退職し、各ユニットの職員の人事異動もありましたが、日頃より2・3階の入居者・職員が毎日のようにカラオケやお茶会、趣味・工作等で交流を深め、馴染みの関係作りをしている事から、入居者の大きな動揺も無く、ダメージも最小限に防止する事ができ、現在も馴染みの関係は維持出来ています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>外部の研修に参加して頂き、研修内容をスタッフ会議や学習会で他のスタッフに報告し、情報を共有しています。また、実際に援助の中で実践し、確認・理解してもらう事で、各ユニットのスタッフのスキルアップの向上に努めています。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>グループホーム協議会の研修会や交流会等への参加及び地域包括支援センター主催の学習会等にも参加。同業者との交流を図りながら、同業者同士の職員の交換研修等を通じ、参考にさせて頂きながら改善すべき箇所は早期に話し合うなど、サービス向上に向けての取り組みを行っています。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>定期的に各ユニットを訪問し、一人ひとりの職員と挨拶・会話をする中で、不安や疑問・意見や不満等の訴えを聞き入れるなど、少しでも個々の職員のストレスを軽減する為の取り組みをしています。忘年会や新年会も開催。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>個々の職員の支援に対する努力・実績・勤務状況等をフロアリーダー・ケアマネから報告を受け、職員のメンタル面にも配慮しながら、個々の技能・能力を生かし、常に向上心を引き出せるような指導・助言に努めています。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>利用相談の際より、ご家族や関わりのある事業所等から情報の提供をして頂き、傾聴・受容の姿勢で取り組む事で、ご本人が困っている事・不安な事・求めている事を、安心して相談できる受け入れ態勢・雰囲気作りに努めています。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>利用相談の際より、関わりのある事業所等から情報を提供して頂きながら、ご家族の困っている事・不安に思っている事・求めている事等が相談できるよう傾聴・受容の姿勢に取り組み、十分な説明を行う事で、安心してご利用頂けるよう心がけています。また、気軽に相談出来る雰囲気作りにも努めています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用相談の際より、ご本人やご家族の思いや意向を傾聴し、必要としている支援の見極めを行っています。求められている支援に対し、スタッフ全員と協議を行いながら、初期の介護支援計画を立て、その他のサービスについてもご家族と相談し、必要としているサービス利用を含めた支援に努めている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前にご本人・ご家族にホーム内の見学をして頂き、ホームでの生活と雰囲気を肌で感じて頂き、入居者と御一緒にお茶会や談話できるよう、場面作り工夫しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日常生活動作の中で個々の能力を活かした役割分担を行い、意欲の向上に努めています。料理や掃除の際のちょっとした工夫を入居者の方から教えて頂く事もあるなど、日々職員が学ぶ事も多くあります。廃品を利用した季節に合った物作りを楽しみ、色合い・アイデア等を持ち合い、完成の喜びをともに分かち合うなど、互いに学び支えあう関係を築いています。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	月に一度の育成会通信誌の配布とともに、定期的な連絡や面会時には、スタッフが日々様子を伝えると同時に、ご本人の要望をご家族に伝える代弁者ともなっています。ホームで行事やイベントがある際にはご家族にご案内をさせて頂き、ご家族と過ごす時間が図れるよう働きかけています。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ホームでのご様子を伝えるとともに、お互いの情報交換を行う中で理解を深め、ご本人とより良い関係を築いて頂ける様、支援しています。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	通い慣れた美容室の継続や、知人へ電話をしたり、手紙を出す支援も行っています。来設されたご友人とゆっくり会話を楽しめる雰囲気作りにも努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者が互いに助け合い、優しい言葉を掛け合ったり、いたわっている姿が多く見られ、職員は入居者同士の支え合いを継続できるよう支援しています。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	外出先でお会いした時など、声掛けしホームに立ち寄って下さるようお伝えしています。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の信頼関係作りに努め、日々の会話の中からご本人の思いを傾聴したり、察する事があり、その思いや意向が叶うよう努めています。把握が困難な場合には、ご家族からの情報を頂き、スタッフと話し合いを行いながら、その方の行動や表情の中から思いや意向を感じ取る努力を行い、本人本位の介護計画を作成し、支援に努めています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ライフヒストリーやセンター方式の活用。ご家族や関わりのある事業所等より情報の提供を頂き、サービス利用経過の把握にも努めています。居室には馴染みの物を持ち込み、住み慣れた環境作りに努めています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個人日誌を活用し、日々の生活の中での体調の変化や表情・言動に留意しながら現状の把握に努めています。常にスタッフ間で情報交換を行いながら、その人なりの穏やかな生活を過ごして頂ける様、支援しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	3ヶ月及び変更が必要な際にはその都度ケアカンファレンスを行い、介護支援専門員がご本人・ご家族の意向に添った介護計画を作成。ご家族に説明・承諾の後、捺印を頂く事となっています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月毎の見直しの他に、その都度変化が生じた場合は、速やかにケアカンファレンスを開き、新たに介護計画の見直しを行っています。リスクを最小限にとどめる為、統一したケアを徹底し、報告・連絡も怠らないように努めています。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別に介護記録を記入。状態の変化や言動・対応等を記載し、スタッフ間で共有しています。ご家族が閲覧する事も可能。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご家族やご兄弟との外出や外泊、病院受診などご家族が対応困難な場合は、職員が受診対応の支援を行っています。ご本人の意向・要望によっては買い物やドライブ等も実施しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	災害など必要に応じて交番や消防・地域の方々へのご協力をお願いしています。年に2回定期的に消防訓練を実施。外部徘徊等の対策としてSOSネットワーク(交番)との連携、地域や小学校の慰問を受けるなど、皆様のご協力を頂きながら支援に努めています。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	ご本人の必要性に応じて、地域のケアマネージャーやサービス事業者に相談・話し合いながら、福祉用具のサービスを利用したり、介護タクシー等を利用しています。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	定期的な訪問や運営推進会議等の際に、利用者に対する相談事やご家族の悩みの相談、地域住民との取り組みについての指導や助言を頂くなど、常に協力体制・連携を図っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	個々の利用者のご家族と連携を図りながら、かかりつけの病院へ定期受診及び異変時の受診対応を行っています。ご家族が受診同行の際には、経過状況報告書と健康管理票(バイタルチェック表を作成)をご家族に持参して頂く事で、適切な医療が受けられるよう支援に努めています。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	精神科の医師と連携を図りながら、往診時に状況報告を行い、内服薬の調整をして頂いたり、副作用や見守りの視点等の指導を受けています。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	定期的な訪問看護師の来設の際には、日常生活の状況及び治療経過の報告・相談をし、一人ひとりのご様子を見て頂きながら、日常生活上の指導を受ける事で、健康管理の支援に努めています。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者が入院した際、ご家族の負担軽減のため連絡を密に取りながら、定期的に訪問し、必要物品の準備と衣類の洗濯・交換の実施。療養状況や療養方針について看護師やソーシャルワーカーとの情報交換や相談に努めています。退院後の安定した受け入れ態勢が整えられる様、スタッフへの情報共有も常に行っています。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末期に関しては、ホームの利用相談の際より、ご本人やご家族からの不安事として相談が多い為、早い段階から話し合い、ターミナルを希望される方には医師や訪問看護師との協議の上、スタッフにも方針を周知・共有しています。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	かかりつけ医や訪問看護師の協力のもと、重度化や終末期に向け、ホームとしての「できる事・できない事」を見極め、チームとして優しく精神誠意取り組みが出来るよう実践しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ホームから別の居宅及び施設等へ移り住む際、移動先との話し合いや支援状況等の情報交換を行い、介護内容を詳細に記入した添付書をお渡しする事で、住み替えによるダメージの防止に努めています。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者一人ひとりの人格を尊重し、自尊心を傷つけないよう真心で接するように努めています。個人情報は事務所内書庫にて保管・管理しています。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>安心できる環境作りに心がけ、日々の会話の中で何を思い、何を求めているのかを受容し、個々に合わせた説明を行いながら、自分で決めたり納得しながらその人なりに暮らせるような自己決定の支援も行っています。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>家庭に居る雰囲気大切に、ご本人のADLに添った思いや希望を優先し、「出来た」「楽しかった」と喜びを共感し合える支援をしています。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>美容に関しては、月に一度専門の方に訪問して頂き、ご本人の要望がある場合には外出して馴染みの美容室へ行っています。整容の乱れなど、ご本人の自尊心を傷つけないよう、さりげない誘導で整えられるよう心がけています。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>器や盛り付けなどに気配りし、見て楽しみ、味わって喜ばれる調理の工夫に努めています。残存機能を活かした役割分担を行い、食事の準備や後片付けなどスタッフと一緒にしています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲酒や喫煙をされる方はいませんが、ニーズに合わせ、おやつの時など手作りの物などを提供し、飲み物についても好みの物を提供するなど、少しでも満足して頂けるよう支援しています。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	トイレの表示を工夫する事で明確にし、排泄チェック表により個々の排泄リズムを把握しながら、さりげなく誘導できるよう支援に努めています。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	家庭と同じ一人用の浴槽を使用。個々の入居者に合った椅子やマットなどを使用し、リラックスできるよう入浴剤等を使用した週2～3回の入浴の支援を行っています。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中の活動を促しつつ、自由に休息して頂けるように配慮に努めています。昼夜逆転防止にも心がけ、一人ひとりの生活習慣に応じながら、その人なりに安心して気持ちよく休息・睡眠が図れるよう支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	役割を通して、ご本人が達成感を得られるものを提供し、周囲から褒められ認められる喜びを感じられる事で、張り合いの持てる生活が維持されるよう支援しています。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人・ご家族と相談し合い、殆どの方は事務所内の金庫に保管されています。但し、ご本人の希望で購入品がある時、また病院通院時には所持して頂き、ご自分の手から支払って頂く様にしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	春先から秋までの天気の良い日は、外気浴や散歩などを楽しみ、近郊へのドライブや外食・買い物などの外出支援を行っています。ご本人の希望によっては連絡を取りながら、ご友人宅への訪問の送迎もさせて頂いています。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ご兄弟の方と温泉へ行かれたり、入居者の方々と蘭の展覧会やコンサート等に出掛け、楽しまれる機会を提供しています。また、ご本人が希望される際には選挙の投票所へ行く等の支援も行っています。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	遠方のご家族に近況報告等を電話又はお手紙でやり取りして頂いています。また、普段からご家族への電話を希望される方には、その都度職員が電話を取り次ぐなど、支援しています。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族・ご友人の方の面会時には、思い思いの場所でお茶を飲みながら、自由にくつろいで頂いています。個人のアルバムや作品を見て頂き、和やかな時間を過ごして頂ける様、工夫しています。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	運営者及び全ての職員が身体拘束における具体的な内容を把握しており、学習会や会議の場でも再確認しながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	運営者及び全ての職員が鍵を掛ける事への弊害を理解し、鍵を掛けないケアに取り組んでおり、現在、鍵を掛ける事はありません。また、帰宅願望の強い方に対しても、ご本人の行く手を阻む事無く同行し、ご本人の思い・意向を傾聴しながら納得してホームに戻られるような支援もしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	個々のプライバシーに配慮しながら、居室在室時は自由に扉の開け閉めをして頂き、ご本人なりの安楽な時間を過ごして頂いています。定期的な見守りの際には、必ず扉をロックして訪室し、声掛け・安否確認をさせて頂いています。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個々の状態・生活状況に応じて、必要としている物品(裁縫道具・鋏・爪切り等)に関しては取り除く事はせず、自由に使用して頂いています。注意が必要になった際にはご家族にご相談させて頂き、また、ご家族がご本人とご相談頂きながら、危険の防止に努めています。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	職員全てが入居者一人ひとりのADL状況を常に把握し、会議等で個々にどのような危険性があるのかを報告・連絡・検討しながら、事故防止に取り組んでいます。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変時・緊急時のマニュアルを作成。常に職員が早期対応出来るように、学習会や会議の際に対応方法を確認している。昨年よりホームにAEDを設置。使用方法も講習し、分かりやすく使用方法のマニュアルも装備しています。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	運営推進会議において、町内会役員の方々に災害時、地域の皆様の協力要請をお願いしています。また、防火訓練の際に消防職員にいちばん安全と思われる避難方法・避難場所についてご指導頂き、職員全てに周知しています。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ご入居前より、ご本人との面会及びご家族やサービスを受けていた事業所等からの情報提供により身体状況を把握し、個々に起こり得るリスクについてご家族に十分な説明・理解を得ています。日々変化がある毎に報告・相談、状況に応じた対策を行う事で、抑圧感のないご本人なりの暮らしが維持出来るよう努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	起床時のバイタル測定の継続、排泄確認、更衣介助及び入浴介助時の全身の皮膚観察、歩行・言動・表情など見守りし、異常がある際には速やかに対応出来るよう支援しています。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々の薬ケースを作り、日々の服薬に関しては日付・時間に配慮し、手渡にて服用を確認。処方箋の確認を怠らず診療報告書に目を通し、特に薬の変更時には伝達の徹底に努めています。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排尿・排便表を付けており、便秘気味の方には特に水分摂取の声掛けを行い、排便困難な際にはかかりつけの医師に相談し、便秘薬の処方を受け服用する事もあります。また、日頃より食事の献立に食物繊維を多く含む食材を取り入れるなど工夫をしながら、日常生活の中で歩行運動など身体を動かす働きかけも行っています。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後の口腔ケアの施行。介助が必要な方には義歯洗浄等の介助を支援しています。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	特にカロリー・塩分・水分制限の必要な方は、予めチェックをさせて頂き、食事に関しては全体的に薄味とし、本来の食材の味を活かしながら調理の工夫に努めています。外出・散歩・入浴五・おやつ・毎食後や要求に応じ、水分摂取の促しを行い、飲水量のチェックを実施。訪問看護師の助言を頂きながら一日の必要量を摂って頂けるよう支援しています。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアルを作成し、流行時の対応に活用。インフルエンザ対策として、入居者及びスタッフの予防接種を実施。外出後は必ず手洗い・うがいの励行、来設者にも同様に実施して頂いています。ノロウイルスのように季節によって多く発生する感染症の対策としては、その期間、なま物の食材及び外部からの飲食物の持ち込みを禁止とし、ご家族との面会も一定の場所を設け、そちらで過ごして頂いています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>毎日、台所の調理器具等の殺菌消毒等を実施。食材の有効期限や保存方法を守り、食事を作る時間(特に夏の時期)を考慮しながら調理・工夫に努めています。(基本、作り置き2時間以内)</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>バリアフリーの玄関前には畑と花壇が隣接し、ベンチが設置されています。毎年春先には地域の方々の協力を受け、畑・花壇に種や苗を植え、設置されたベンチに座りながら、秋頃まで畑の生育状況や花壇の花々を楽しむ事が出来ます。時には近隣の方のお茶会やホームの昼食タイム、地域の方も交えた周年祭なども行われ、子供達も気軽に寄ってくれます。また、ホームの玄関前は毎年町内会の行事にも活用されています。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>リビングや廊下など共用の空間には入居者・スタッフが共に手懸けた作品を飾ったり、季節の花や小物をさりげなく飾っています。共用空間の掃除の際には事前に声掛けをしてから掃除機を掛けています。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>食卓とは別に、ソファが2か所設置されており、好きな場所で入居者同士がサークルになり、活用されています。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>新しい物ではなく、ご本人が好みの物・馴染みの物をご用意して頂き、ご本人が心地よく生活して頂けるように工夫をしています。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>温度調節は入居者の状況に応じてまめに行い、掃除の際にも定期的に空気の入替えを行っています。香りの良い殺菌・消臭剤を使用し、空気のリフレッシュを行ったりする事もあります。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>職員全員が利用者一人ひとりの思いや意向について把握し、意見を出し合ってケアプランを作っております。</p>
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>「介護する」「介護をされる」といった一方的な関係ではなく、一緒に過ごす時間を作ることによって、喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり支え合う関係を築くのはサービスを支援するには不可欠であると考えております。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>一人ひとりの生活のリズムや、本人の意向を大切に、日々の暮らしがその人らしいものとなるように心がけています。ホームの都合や決まり事に合わせるのではないと思っております。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>基本的な生活の支援として、身だしなみやおしゃべり、食事を楽しむなど、一人ひとりの好みや力を活かしながら支援しております。また、気持ちよく排泄するための工夫や、くつろいだ気分で入浴していただくなど、工夫して支援しております。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>利用者がホームの中だけで過ごさずに、散歩など戸外へ外出できるような支援をしています。畑もあるので、作物の成長を見るのが日課の方もいますし、同じ町内では花壇の整備している方も多く、それを見るのが楽しみでもあります。また、普段行けないような場所に車でドライブすることも定期的に行っています。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>平成19年より、訪問看護ステーションと連携を持ち、定期的な訪問を受け健康管理や悪化予防、助言や指導も頂いています。また、歯科や皮膚科の往診もあります。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>利用者の要望は固定したのではなく、その時々々の本人やご家族の状況、要望に引き合わせて、必要な支援を柔軟に行っております。それには、馴染みの職員が継続的に支えるのが不可欠であると考えております。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p> <p>理念にもありますが、ご家族との理解と協力があってこそ、利用者へのより良い支援に繋がると考えております。ホームに介護をゆだねきりでなく、連絡を密にとりながら信頼関係を築いていかなければならないと思っております。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>本人の馴染みの人たちが気軽に訪ねてきてくださいます。また、町内会や老人会の交流の場所として、1階のスペースを開放しておりますが、居心地良く過ごせるような配慮や工夫も必要なので、職員が話し合って進めていきたいと考えております。</p>

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	運営推進会議は定期的に行っており、町内会の役員の方が参加してくださっております。町内会の行事にも積極的に参加しており、地元の関係は深まってきていると思います。また、包括支援センターとの連携では、地域巡回相談の場所としてホームのスペースを利用する予定もあります。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	定期的に個人面談を行っています。職員の働く環境が良いものでなくて、良いサービスの提供はできないと考えております。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	利用者がその人らしく暮らし続けるため、職員全員で話し合いをしてケアプランを作成していますので、できる限りのサービスは提供していると思っております。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	最初の相談から現在に至るまでの関係作りはできていると思っております。本人と家族の思いの違い、家族同士の中での違いも含め、ご家族の立場に立って、お話をしっかりと聴き、受け止めながら信頼関係を築いております。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

ホームが地域において、閉鎖的や孤立した場所にならないように、地域との交流を大事にしています。建物の1階部分が開放できるので、色々な行事を行い参加もしています。また、前庭は、町内会の盆踊り大会や野遊会の場所としても利用していただいています。また、災害時の一時避難場所として、地域の人たちの受け入れ等やホームの災害時についても、町内会と連携し相互協力の関係でありたいと考えております。